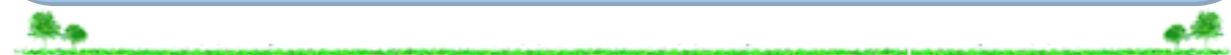


日本発達障害ネットワーク北海道 第13回年次大会

「みんなで語ろう発達障害」

我が子が発達障害とわかり、将来に不安を抱えている保護者の方。その特性が社会に出た時に困るのではないかと関わり方や支援方法に悩む先生方。地域で過ごす機会に必要とされる支援を考えている福祉や行政の方。そして大人になってから発達障害がわかったご本人や保護者の方。

発達障害のある人が自分らしく生きるためにはライフコースに渡る一貫した支援が必要です。それぞれのライフステージでそれぞれの立場から発達障害の支援に係わる人たちが集い、日々の生活での課題を共有しながら、みんなが連携する支援のあり方を、みんなで語り合いたいと思います。



1. 開催日時 2018年7月8日(日) 9:30受付 10:00~15:50

2. 会場 札幌市教育文化会館301研修室 (札幌市中央区北1条西13丁目)

3. 参加定員及び参加対象 110人

一般道民、当事者・家族、行政、教育、医療、研究者、企業・雇用等支援機関関係者など

4. 参加費(テキスト代) 1,000円(当日受付にてお支払い下さい)

5. 共催 日本発達障害ネットワーク北海道・塩野義製薬株式会社

日本発達障害ネットワーク北海道の構成団体は下記19団体です。

(親の会)

北海道自閉症協会、「ドンマイの会」、アスペルガー基地みらい、NPO法人ハーモニー、NPO法人北海道学習障害児・者親の会クローバー、旭川LD親の会「ぷりすむ」、小樽後志LD・発達障がい児者親の会「ぼてとの会」、室蘭LDを考える会「ダビンチの会」、NPO法人ことばを育てる親の会北海道協議会

(職能団体・研究団体)

北海道臨床心理士会、日本自閉症スペクトラム学会北海道支部、S.E.N.S(特別支援教育士の会)北海道支部会、日本臨床発達心理士会北海道支部、北海道感覚統合研究会、(公益社団法人)北海道作業療法士会、発達障害者支援センターあおいそら、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる、北海道発達障害者支援道北地域センターきたのまち、北海道発達障害者支援道東地域センターきら星

6. 後援(申請中)

北海道、北海道教育委員会、北海道厚生局、北海道労働局、北海道保健福祉部、北海道特別支援教育学会、北海道発達障害支援センターあおいそら、発達障害者支援地域センター(きたのまち・きら星)、札幌市自閉症者自立支援センター、札幌市自閉症・発達障がい支援センター、一般社団法人日本発達障害ネットワーク

7. 参加申し込み方法

日本発達障害ネットワーク北海道 Facebook (<https://www.facebook.com/Jdd ネット北海道-260944851144095/>) 「申し込みフォーム」へ必要事項をご入力の上、お申し込みください。

* ホームページからのお申し込みができない場合は、参加者の ①氏名 ②所属（勤務先または障がい者との続柄）③連絡先 ④“7月8日フォーラム参加希望”とご明記の上、FAX（011-706-3105）または、メール（jddhokkai@yahoo.co.jp）にてお申し込みください。

* 申し込み者数が定員に達した時点で受付を終了とさせていただきます。

申し込みにあたって提供された個人情報は、日本発達障害ネットワーク北海道の年次大会の受付手続きにのみ使用いたします。なお、共催の塩野義製薬株式会社は、申し込み者の個人情報を取得しません。

8. 当日プログラム

☆午前の部（10：00～12：35）

※主催者あいさつ（上田マリ子 日本発達障害ネットワーク北海道代表）

企画主旨の説明（安達潤 日本発達障害ネットワーク北海道常任理事） 5分

1. 支援連携についてのいくつかの話題提供

1) 成田昭仁（医療法人社団 倭会 三恵病院 精神保健福祉士） 20分

（タイトル：ソーシャルワーカーから見た連携の課題）

2) 齊藤卓弥（北海道大学大学院医学研究院 特任教授） 30分

（タイトル：医教連携と発達障害支援拠点ガイドライン）

3) 安達潤（北海道大学大学院教育学研究院 教授） 30分

（タイトル：当事者と支援者の多職種連携ツール ～ICF（国際生活機能分類）の実践活用～）

> 休憩 10分

2. 行政からの話題提供

1) 加藤永歳（厚生労働省 発達障害対策専門官） 30分

（タイトル：平成30年度 厚生労働省 発達障害支援施策における連携とその必要性）

2) 田中裕一（文部科学省 特別支援教育調査官） 30分

（タイトル：連携・引継ぎに係る制度等について ～文部科学省における取組～）

> 昼休み（12：35～13：35） 60分

☆午後の部（13：35～15：50） >>> 16：00には必ず終了いたします。

※午後企画 ワークショップの説明（安達潤 日本発達障害ネットワーク北海道常任理事） 5分

1. ワークショップ 「みんなで語ろう発達障害」 60分

（テーマ：つながる支援がほしかったとき・・・できたこと、できなかったこと）

○各グループのファシリテータ等は登壇者と日本発達障害ネットワーク北海道会員が担当いたします。

> 休憩 20分

2. ワークショップの全体共有（進行：安達潤 日本発達障害ネットワーク北海道常任理事） 30分

3. 企画全体のまとめ（室橋春光 札幌学院大学 心理学部 教授） 5分

※閉会の挨拶（村田昌俊 日本発達障害ネットワーク北海道副代表） 5分